

令和6（2024）年度第1回柏崎市スポーツ推進審議会

1 日 時 令和6（2024）年11月27日（水） 午後3時00分～午後4時30分

2 会 場 市役所4階 4-3、4会議室

3 出席者 【委員】

石井卓委員、須藤泰司委員、川尻優委員、佐藤幸治委員、重野典子委員
後藤由香理委員、西沢彰委員、月橋直子委員、岡村宜城委員、小山真樹委員、
木村重成委員、飯塚政洋委員（欠席）上島慶委員

【事務局】

近藤教育長

スポーツ振興課 藤巻課長、秦野係長、佐藤主査

学校教育課 矢島囑託指導主事、吉田副主幹

4 会議概要

(1) 開会

近藤教育長 あいさつ

本日は、年末のお忙しい中、令和6（2024）年度第1回柏崎市スポーツ推進審議会の開催にあたり、平日の御多用な時間にも関わらず、御出席いただき有難い。併せて、この度、一般公募の方3名を含め、13名の皆様から審議会委員の就任を引き受けていただいたことに御礼申し上げます。2年間であるが、本市におけるスポーツ振興の更なる推進にお力添えいただけるようよろしくお願いいたします。

さて、今年もあとわずかとなった。今年度の柏崎市のスポーツはいかがでしたか。パリ2024オリンピックでは、本市から男子水球、セーリング競技の代表を送り出すことができ、それぞれ御活躍をいただいた。また、新潟産業大学附属高校野球部が柏崎勢として初となる夏の甲子園に出場し、見事1回戦を突破したことはまだ記憶に新しいことと思う。柏崎市在住の皆様のみならず、全国にお住いの柏崎市出身の方々がこの活躍に感動し、エネルギーをもらったのではないか。そして、この冬、新潟産業大学附属高校の女子バスケットボール部が全国大会出場を果たしたが、全国大会での活躍、上位躍進を大いに期待したいと考えている。

スポーツ選手の活躍は、市民を明るく元気にしてくれる。そして、市民に広がるスポーツの輪は「スポーツのまち柏崎」全体を盛り上げてくれるものだと感じている。

本日の議題になるが、まずは令和6（2024）年度のスポーツ振興課の主な取り組みについて説明させていただく。次に、中学校部活動の地域移行についてである。これまでも審議会でごたび説明させていただき、御意見を頂戴してきたが、令和8（2026）年度から、休日の学校部活動地域移行の本格実施を図ってまいりたいと考えている。実質あと一年しかありません。ここでは今年度の動きについて説明させ

ていただく。最後に令和7(2025)年度の開催予定の市民大運動会についてである。市民大運動会は5年に1度開催される本市の一大イベントである。前回の令和2(2020)年度は残念ながら新型コロナウイルス感染症対策により、一堂に会せず、Webによる各地域をつなぎながら行う運動会でした。通常通りの開催となれば実に10年ぶりとなる。多くの市民から御参加いただけるよう実行委員会を立ち上げ、競技種目や内容の検討を現在行っている。本日はその進捗状況について説明させていただきます。

限られた時間となるが、多くの議題がある。それぞれの議事を慎重に審議していただくとともに、それぞれの立場から忌憚ない御意見をいただければと思う。

(2) 柏崎市スポーツ推進審議会委員紹介

(3) 事務局職員紹介

(4) 議事

① 柏崎市スポーツ推進審議会 会長、副会長の選出

事務局から、佐藤委員(柏崎市スポーツ協会)を会長、月橋委員(かしわざき振興財団)を副会長とする提案を行い、承認された。

② 令和6(2024)年度、スポーツ振興課の取組について

資料に基づき、事務局から説明。

委員 小・中学校の給食で実施された「オリンピック応援メニュー(ビタミンB1 丼)」とはどのようなメニューだったのか。

事務局 豚肉などビタミンB1が豊富な食材を生かした丼となっている。

③ 部活動地域移行の現状(経過報告及び意見交換)

資料に基づき、事務局から説明。

委員 卓球について、地域クラブへの試行が出来ていないとの説明であるが、柏崎市では卓球が盛んに行われているように感じる。試行が出来ていない要因としては何か。

会長 卓球連盟からは、地域クラブの試行は出来ないのではなく、試行をしないと聞いている。休日の部活動を地域クラブで対応するのではなく、今後も見据えた中、既存のクラブや卓球塾などで対応すること。

委員 休日の地域クラブの参加について、ほぼ毎回参加していると回答したのが８０％もいるにも関わらず、令和７（２０２５）年度の休日の地域クラブに参加しようと考えているのが３７％と減っている。原因をどう考えているか。

事務局 聞き取り調査を行っていないので難しい部分もあるが、考えられる原因として、これまで部活動では休日の参加が当たり前だったことが、地域クラブで参加・不参加が選べるようになり、選択できるということが浸透してきているのではないかと。

委員 調査結果の数字に対して内訳を想像して議論するわけにはいかない。結果は受け止めつつ、結論は分からないのではないかと。

委員 中学校保護者からの回答で、「参加経費は全て受益者負担となる」とあるが、長野県ではふるさと納税を活用したやり方があると聞く。いろいろな方法を検討しながら、経済格差が生まれないよう配慮してほしい。

会長 税金を活用し受益者負担の軽減に使うことは難しいかもしれない。既存クラブとの関係など課題も多い。しかし、他自治体の状況を見ながら検討してもらいたい。

④ 令和７（２０２５）年度市民大運動会について

資料に基づき、事務局から説明

会長 確認だが、前回市民大運動会との大きな違いは前夜祭をしないということか。また、地区体協ごとの参加ではないということか。

事務局 そのとおりである。また、参加は地区体協に限らず、広く職域や団体など募集を行う予定である。

委員 前回の市民大運動会にも参加していたが、今回の内容を聞き、非常におもしろそうだと感じた。パン食い競走をメインとしており、スポンサーもパン事業者に働きかけるとなってくれるのではないかと。参加者について幅広く募集をかけるということで非常にありがたいと感じた。

障がい者への参加に向けた配慮について、障がい者の支援学校などにも案内を出してもらいたい。

事務局 市民大運動会実行委員会には社会福祉協議会からも参加いただいている。健常者だけでなく、障がいにも身体や、視覚・聴覚の障がいなど様々あるが、福祉的な要素を取り入れながら、健常者と同じように楽しんでもらえるよう、いろいろな参加者層に働きかけてい

きたい。

委員 私の地区運動会でもパン食い競走を行っており、非常に楽しみである。パン食い競走を行うにあたり、口でくわえないで手で取る人も中には見受けられる。ぜひ、ルールを徹底してほしい。

事務局 パン食い競走協会では、ルールが明確にされており、手の使用禁止は厳格に表記されている。公式競技では、口でくわえてゴールしてパンを完食しなければならない。一般参加のパン食い競走では普段地区で行っているような競技にするか、公式ルールによる競技にするかは今後の検討としたい。

会長 公式ルールで実施する場合、参加者は理解できずトラブルが起こる場合がある。

事務局 十分に周知していきたい。

会長 市民大運動会ではやる楽しさもあるが、見ている方も楽しめる工夫をお願いしたい。

委員 パン食い競走の公式競技の定義はどのようなものがあるのか。

事務局 パンをつるす紐の長さや間隔、パンをはさむクリップの力などがある。すべてのルールをクリアしようとするとう運営側も大変であるため、最低限必要なルールを守りながら行えるようにしたい。

また、公式競技だけでは、なかなか参加者が集まらない可能性がある。ルールをどこまで緩やかにするかは今後の実行委員会の中で検討していきたい。

委員 公式競技ではタイムレースになるのか。

事務局 タイムレースになる。参加者には記録証も出される。

委員 見ている側も楽しめるような工夫が必要ではないか。

事務局 例えば、小学生の部は公式競技によるタイムレースにし、最も記録の良かった子にはパン製のトロフィーを授与する。一般レースでは公式競技ではなく、普段から行っているようなルールにして、仮装など、パフォーマンス的要素を取り入れ評価できるようなやり方など様々なやり方があり、実行委員会での意見を踏まえながら今後検討していきたい。

会長 確認だが、何人を想定しているのか。レースごとの1位を表彰するのか。

事務局 現在、小学生の部では200名を想定しており、トータルで最もタイムの良い子を表彰する。

会長 総合1位を決めるのは中々大変であると思う。

委員 パン食い競走では、公式競技と地域で行っているようなルールでの競技を実施するとのことか。

事務局 そのとおりである。

委員 なぜパン食い競走をメインにしたのか。

事務局 パン食い競走協会、パンの老舗との御縁や当初からパン食い競走を競技種目として考えていたことから、双方の思いが合致したためである。

会長 予算はどうか。

事務局 予算規模については検討中である。協賛など収益を上げて市民へ還元できるようにしたい。

事務局 実行委員会で経費についても含めながら実施に向けて検討を進めていきたい。また、十日町市では、すでに公式ルールに準じたパン食い競走を実施している実例もある。

⑤ その他

会長より、スポーツ協会会報、スポーツフェスティバル2024の事業報告について説明。質問など特になし。

委員 部活動の地域移行の議題の際に伝え忘れていたが、国では休日だけでなく平日の部活動の地域移行について触れられている。現時点で休日の地域移行もスムーズにいけない自治体が多い中、平日も地域移行となると今から準備を進めていかなければならない。

 もう一つは、市教委、各連盟・協会、指導者、保護者との連絡体制の構築とあるが、スポーツ推進審議会はどのように関わっていくのか。

事務局 部活動の地域移行について、学校部活動地域移行推進会議やスポーツ協会、各競技団体への説明会等を行っているが、推進審議会からいただいた意見は今後の進め方の参考とさせていただく。

 平日の移行について、休日の移行をまずは進めさせていただき、国、県の動向を踏まえながら進めていきたい。

(5) 諸連絡

事務局より、費用弁償の支払いについての変更を説明。

(6)閉会

副会長 大変お疲れさまでした。

 体育施設を管理する立場にいるが、日々、指導者や関係者の熱意を感じている。また、審議会での意見交換を踏まえながら、今後のスポーツの推進に努めていかなければならない。

 事務局からの報告があったが、パリ2024オリンピックや夏の甲子園出場など明るい話題が多く、見ていて非常に楽しく感動をい

ただいた。次年度に開催予定の市民大運動会では、見るだけでなく自分も参加して楽しむことも大事なことと感じた。

部活動の地域移行については、非常に大きな課題であると感じる。本格実施に向けて時間のない中ではあるが、いろいろな意見を踏まえつつ、実施してみなければわからないこともあるかと思う。今後引き続き議論をお願いしたい。

本日はありがとうございました。

以上